

重さ20トン、長さ19メートルの桁を架ける！～渋滞をなくすために、日々、頑張っています！～倉敷立体事業

2017.12.06



11月30日（木）、岡山大学の未来の土木技術者16人の現場見学会にお邪魔してきました。現場で日々活躍する先輩技術者から、土木に携わっていく仕事のスケールの大きさ、安全管理の大切さについて説明がありました。

今回お邪魔したのは、橋の上の部分、「桁」を橋の柱（橋脚）にのせる工事の現場です。

当日はくもり空でしたが、テレビ局などの取材もあり、盛り上がりの中、見学会は進みました。



現場で説明している、極東興和（株）の三原さん。三原さんは、この春入社されたばかりの社会人一年生です。模型を使って、「桁」の構造「プレストコンクリート（PC）」構造などについて分かりやすく教えてくれました。



この桁は、島根県江津市の桁の製作工場から、遠路はるばる5時間かけて、やってきました。乗せている桁が重たいので、交通の妨げにならないように、道路を走れる時間帯が決まっています、ドライバーさんも、時間に遅れて、作業が停まってしまうように、一丸となって頑張ってくれています。



大きな桁に付いている、「黄色い鋼」、実は、「親綱」と言って重要な役割を担っているんです！

安全帯（アンゼンタイ）という道具を親綱に引っかけて、作業員さんが落下して怪我をしないように工夫されています。



桁の下から、上をのぞいた写真です。桁と桁の間は、隙間が空いていて、青空が見えています。
このあと、コンクリートでこの「隙間」は無くなるのでこのタイミングしか見られない光景でした。

未来の土木技術者の大学生からは、
「重たい荷物を運んだりすることはありますか？」
「この仕事を選ばれたきっかけは何ですか？」
などの質問があり、社会人一年生に向けて、将来の仕事選びのキッカケになったようです。

土木技術者として第一線で働いている三原さん。
土木の現場は、男性の職場だと勝手に思い込んでいた、私がとても恥ずかしいです。
三原さんが、現場でイキイキとお仕事をされている姿は、社会人一年生と思えないほど、
堂々としていて、カッコイイという言葉がぴったりです。

記事作成：岡山国道事務所 品質確保課 きゅうり